

## 第2章 農業の概況

「ア」国は3分の2以上が山岳地帯で、平均海拔は708メートルである。気候は地中海性気候であるが、東部は大陸性気団の影響を受けて冬季の寒さは厳しい。国土の約4割が農用地として利用され、小麦、トウモロコシ、野菜、ジャガイモが生産されている。

1991年に始まった農地改革は同国の労働人口のおよそ半分が就労する農業部門に大きな変革をもたらした。それまで国営農場として管理されていた農地が1995年初めには協同組合農場へほぼ100%配分され、38万戸の民営農家（平均所有面積：1.3ha）が生まれた。このことにより、従来の大農場における大型機械を用いた農法は適さなくなり、市場経済化の流れとも相まって小型・中型機械を利用した多様な営農体系が主流となった。その結果、大農地での機械集約的な生産を行っていた小麦、トウモロコシ、野菜、ジャガイモ等の生産はこの時期一時的に生産量が減少した。その後すべての補助金・指示価格制度は廃止され、完全な自由経済環境となり、一旦1996年11月から1997年2月にかけて発生したねずみ講事件によって経済成長が大きく後退したものの、その後政府は農業の民営化・価格の自由化等に着手した。1998年には農業はGDPの63%を占めるまでに成長を遂げ、「ア」国の経済成長の一因となった。

しかしながら、道路事情が悪いため農民が市場へアクセスするのが難しい、国内の市場ニーズを農民へ伝達するための情報網が整っていない等農業インフラが未整備であることは、需給バランスが不安定で、生産高が頻繁に変化する原因のひとつとなっている。この事態を防ぐには農民の意識改革と農業インフラ整備が早急に望まれる。その達成には政治情勢の安定化と資金を要するが、特に資金の面については、「ア」国政府自体の予算も限られており、国家経済が一定のレベルに達するまでは、他ドナー国や国際機関の援助が大きな役割を担うことになるであろう。

表2-1に農業就労人口を示す。「ア」国においては農業従事者は総人口の半分以上を占めるが、農業従事者の収入は低く、基幹産業である農業の就労者の収入増加はそのまま国家経済の発展につながる。そのため「ア」国においては農業開発が経済政策とは切り離せない重要課題となっている。

|                      | 1994  | 1995  | 1996  | 1997  | 1998  | 1999  |
|----------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 総人口（千人）              | 3,209 | 3,117 | 3,151 | 3,132 | 3,119 | 3,113 |
| 農業従事者（千人）            | 1,671 | 1,634 | 1,601 | 1,571 | 1,544 | 1,521 |
| 対総人口<br>農業従事者<br>（%） | 52.07 | 52.42 | 50.81 | 50.16 | 49.50 | 48.86 |

表2-1 総人口に占める農業従事者の割合

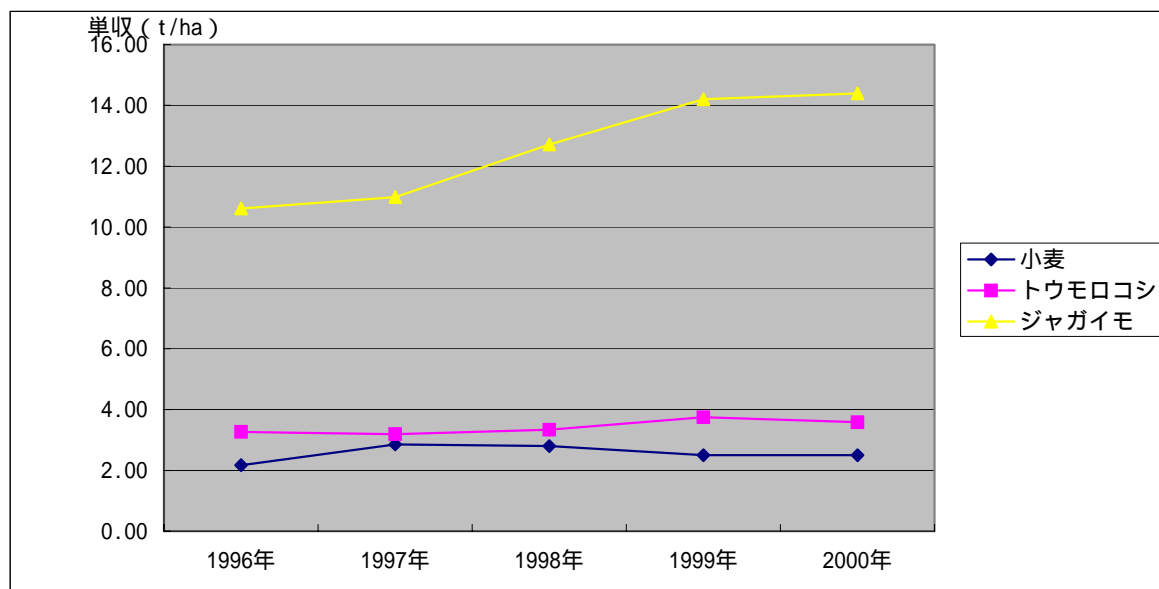
（出典：FAOSTAT）

表2-2に近年の主要作物の生産量、耕作面積及び単収を示す。各作物とも耕作面積は1995年からほとんど増加しておらず、単位面積当たりの収量は、ジャガイモのみが1995年から1999年にかけてわずかであるが増量になっている。グラフ2-1に単位収量の推移を示す。

| 作物名    |           | 年度      |         |         |         |         |
|--------|-----------|---------|---------|---------|---------|---------|
|        |           | 1996年   | 1997年   | 1998年   | 1999年   | 2000年   |
| 小麦     | 生産量 (t)   | 271,150 | 388,391 | 395,067 | 272,000 | 330,000 |
|        | 耕作面積 (ha) | 124,721 | 136,200 | 140,910 | 109,000 | 132,000 |
|        | 単収 (t/ha) | 2.17    | 2.85    | 2.80    | 2.50    | 2.50    |
| トウモロコシ | 生産量 (t)   | 214,059 | 194,818 | 189,130 | 206,000 | 215,000 |
|        | 耕作面積 (ha) | 65,654  | 61,145  | 56,599  | 55,000  | 60,000  |
|        | 単収 (t/ha) | 3.26    | 3.19    | 3.34    | 3.75    | 3.58    |
| ジャガイモ  | 生産量 (t)   | 131,590 | 126,729 | 144,996 | 161,900 | 180,000 |
|        | 耕作面積 (ha) | 12,398  | 11,534  | 11,398  | 11,400  | 12,500  |
|        | 単収 (t/ha) | 10.61   | 10.99   | 12.72   | 14.20   | 14.40   |

表2-2 主要作物の生産量・耕作面積・単収の推移

(出典：FAOSTAT)



グラフ2-1 主要作物の単位収量推移

(出典：FAOSTAT)

表2-3 土地利用状況（1999年現在）

| 土地利用区分    | 面積 (km <sup>2</sup> ) | 対総面積比 (%) |
|-----------|-----------------------|-----------|
| 総面積       | 28,750                |           |
| 陸地        | 27,400                | 95.3      |
| 農用地       | 11,280                | 39.2      |
| 耕地および永年作物 | 6,990                 | 24.3      |
| 耕地        | 5,770                 | 20.1      |
| 永年作物      | 1,220                 | 4.2       |
| 牧草地       | 4,290                 | 14.9      |
| その他       | 16,120                | 56.1      |
| 水地        | 1,350                 | 4.7       |

(出典：FAOSTAT)

表2-3に示した土地利用状況によると、耕地及び永年作物の面積6,990km<sup>2</sup>（69.9万ヘクタール）のうち、耕地面積は既に82.5%に当たる5,770km<sup>2</sup>（57.7万ヘクタール）まで利用されている。永年作物及び牧草地に充てられている土地を耕地として転用したとしても、今後耕地を更に広げるとい方向での土地開発は見込みが少ないと言える。それゆえ「ア」国における農業開発は、良質で適切な肥料の投入と農業機械投入による単収増加・農業就労者の負担軽減などが目標となる。

農政については、1991年に始まった農地改革以降、すべての農業生産物及び生産材の価格は自由化されており、食糧に対する補助金は廃止されている。また、輸入にはほとんど制限がない自由貿易体制にある。1996年末において、輸入関税は7～40%の4段階となっており、投資物質、原材料及び基礎的食糧は最低税率群に、高関税は国産品と競合する輸入品に適用され、生産者の価格を支持している。1997年始めには10%の季節関税が輸入の小麦や小麦粉に導入された。

1991年以降の急速な経済の民営化・市場経済化によって国営農業や協同組合農場がほぼ100%解体され、農地がすべて農民に分配された結果、極めて小規模な農地を単位とする生産体系に切り替わった。そのため、大規模農地で機械による集約的な生産を行っていた小麦及びトウモロコシの生産において、小型・中型の農業機械が非常に不足する結果となっている。「ア」国においては、農業機械の製造は行われておらず、全面的に援助または輸入に頼っている。また、肥料に関しても、全面的に援助又は商業的輸入に頼っている。表2-4に「ア」国のトラクター所有数を、次頁表2-5に主要肥料輸出入状況を示す。

|                             | 1994年 | 1995年 | 1996年 | 1997年 | 1998年 | 1999年 |
|-----------------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 使用台数(台)                     | 9,100 | 8,938 | 8,313 | 7,910 | 8,150 | 8,200 |
| 輸入台数(台)                     | 550   | 500   | 516   | 536   | 366   | 355   |
| 輸入費用(1,000米 <sup>ドル</sup> ) | 1,500 | 1,200 | 1,000 | 777   | 770   | 750   |

表2-4 トラクター所有台数と輸入台数

(出典：FAOSTAT)

(単位：Mt)

|                       |     | 1996年 | 1997年 | 1998年  | 1999年 |
|-----------------------|-----|-------|-------|--------|-------|
| 尿素                    | 輸入  | 1,200 | 1,500 | 10,000 | 3,300 |
|                       | 輸出  | 0     | 0     | 0      | 0     |
|                       | 生産量 | 0     | 0     | 0      | 0     |
|                       | 消費量 | 1,200 | 1,500 | 10,000 | 3,300 |
| リン酸第二<br>アンモニウム (DAP) | 輸入  | 0     | 500   | 3,000  | 3,000 |
|                       | 輸出  | 0     | 0     | 0      | 0     |
|                       | 生産量 | 0     | 0     | 0      | 0     |
|                       | 消費量 | 0     | 500   | 3,000  | 3,000 |
| 硝安                    | 輸入  | 4,300 | 2,500 | 6,000  | 1,600 |
|                       | 輸出  | 0     | 0     | 0      | 0     |
|                       | 生産量 | 0     | 0     | 0      | 0     |
|                       | 消費量 | 4,300 | 2,500 | 6,000  | 1,600 |

表2-5 主要肥料の輸出入状況

(出典：FAOSTAT)

このように、食糧生産に必要な農業資機材であるトラクターや肥料のほとんど100%を輸入に頼らざるを得ない状況の中で、「ア」国農業食糧省は、1998年4月から一貫した農業開発計画として「The Green Strategy」という計画を掲げ、中長期的課題に取り組んでいる。本計画の目標は、

- 1) 農業生産性の向上
- 2) 地域農民の所得の向上
- 3) 農産物市場の安定化
- 4) 食糧安全保障の確立
- 5) 農産物市場のEUへの編入

とされており、これら目標達成のために、農業の機械化をはじめとする農業インフラの整備、土地所有権の保証を含む農民への利潤還元及び自由貿易を推進しつつも、適切な政府の介入を是認するといった施策を掲げている。

さらに、2002年から実施される品目別の投入目標として、肥料では使用量の増大及び環境保全を考慮した効果的な散布を、農業機械では機械化促進及び促進のためサービス提供を計画している。これら計画達成のための施策として、以下の項目を掲げている。

- 肥料：
- 1) 土質検査
  - 2) 肥料の品質管理
  - 3) 肥料の使用に係る研修の実施
  - 4) 肥料の使用に係るカウンセリングの実施

- 農業機械：
- 1) サービスセンターによるより良いサービスの提供
  - 2) 特定の新技术に対する投資
  - 3) 農業機械化促進を支援する金融機関の設置

また、食糧増産計画として、対象地域（ティラナ、ディベル、ジロカステルの各県、コロニヤ、ポグラデク、クコーベ、グラムシュ、リブラード、ミリディテ、マレシュ・マデ、プーケ、トロポヤ、ハスの各地区）の基礎食糧（小麦、トウモロコシ、ジャガイモ及び自家用野菜）の生産性向上を計画しており、農業の機械化、肥料の供給等を通じて目標の達成を図っている。

また、近年「ア」国に対する二国間・国際機関の支援も活発で、世界銀行やUSAIDの他、イタリア政府の資金援助を受けてFAOが行っている生産強化計画（プログラム名：FAO 005）が挙げられる。本プログラムは、全国規模で農業機械化に従事する者を対象としており、活動内容としては、土壌の改良、種苗の改良及び農業機械化に従事するネットワークの確立を目指している。